

皆様、こんにちは。町長の宮坂でございます。

今年も大勢の方に厚真町敬老会にご参加を賜り、心から厚くお礼を申し上げます。会場を埋め尽くすほどであります、今年も皆様方のお元気なお姿を拝見することができ、大変うれしく思いますし、人生の達人である皆様方のご長寿を心からお祝い申し上げます。

本日は、渡部町議会議長を始め大勢のご来賓の方々にご参加を賜り、敬老会に花を添えて頂いております。そして、民生委員やあゆみ会など多数のボランティアのご協力をいただき感謝申し上げます。改めて、ご参会の皆様の日頃より町政の発展のために格別のご理解ご協力を賜り重ねてお礼申し上げます。

本日は、300人を超える皆さんに参加をいただきました。本町の敬老会には、数え年で80才以上の方をご招待していますが、該当者は、100才以上の方3名を含む727名の方々と、そのうち、米寿をお迎えの方が32名、90才以上の方が118名おられます。

本年は苫小牧外6ヶ村戸長役場から分離して120年を迎える記念の年に当たります。90歳代の皆さんは、厚真の歴史の4分の3と人生が重なることになり、本日ご参列の皆さん全員が、昭和14年に勃発した第2次世界大戦、戦中戦後の混乱、寝食を忘れて働いた復興期と激動の時代を乗り越え、日本や本町の発展を支え牽引していただきました。厚真町が誇る豊かな大地の恵みは、偏に、皆様の言葉には言い表せないご苦勞のお蔭であり、改めて感謝の誠を捧げるものであります。そのご恩に報いるためにも、時代を引き継ぐ私たちが、精一杯努力して参りますので、今後とも温かく見守って下さるようお願い申し上げます。

本年の8月は大変蒸し暑い日が続く、皆さんも体調管理にご苦勞されたと思います。また、お盆明けに連続した台風の本道上陸或いは接近は、本道各地に甚大な被害をもたらしました。十勝、上川、オホーツク管内は特に大きな被害と人的な被害が生じました。改めて、被災地の皆様にお見舞いとお悔やみを申し上げます。更には、岩手県岩泉町のグループホームでは大勢の命が失われました。毎年のように届く被災地からの悲報ではありますが、自然に対する脅威と備えに対する甘さに悔恨の念を禁じ得ません。本町は、幸いにも大きな被害は免れましたが、皆さんも災害対策本部の情報には、十分に注意をしていただき、避難準備情報などの際には必ず身を守る行動をしていただくようお願いいたします。災害は上手にやり過ごすのが最善です。

本町において被害が少なく済んだ要因の一つが、厚真川及び支流の河川改修と厚幌ダムの建設が進んでいたためであり、先輩諸賢の先見の明とこれまでのご努力の賜と敬意を表するものであります。町民の悲願でありました水害のないまちづくりが着々と進んでいる厚真町ですが、開村時の明治30年は2150人ほどの村民でありました。町制施行時の昭和35年は1万人を超えるに至りましたが、その後は、減少の一途をたどり、現在は4700人弱の人口であることはご案内の通りです。もちろん、豊かさは人口の多い少ないだけでは測れません。基幹産業の農業を支える耕地面積は4800㌦であり、そのうち水田は3500㌦で、伝統的経済指標では10万石となります。農村としては十分な経済力を誇りますが、現在、町域で展開されている厚幌ダム建設、国営かんがい排水事業、道営ほ場整備事業、厚真川総合開発事業、統合簡易水道事業などの推進と併せて、

50年後、100年後の持続的発展を目指して、新たなスタートの年としたいと思います。

開拓期から激動の時代そして高度成長期へと大いなる夢と希望を持って上り坂を駆け登ってきた皆さんであります。これからも私たちを導いていただきたいところではありますが、先ずは、肩の重荷を少しずつ降ろしながら、何よりも楽しい毎日を過ごしていただきたいと思います。季節は正に収穫の秋であります。町民の皆様のご努力もあり、まずまずの作柄のようではありますが、改めて本町の豊かな自然と大地の恵みに感謝し、全ての命に感謝しつつ、皆様のさらなるご長寿をご祈念申し上げたいと思います。

結びになりますが、ここにご参会の皆様のご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶と致します。

平成 28 年 9 月 14 日

厚真町長 宮坂尚市朗